News Release

2019 年 9 月 13 日

各　　位

株式会社ジャパンネット銀行

新たに 50 本のファンド取り扱いを開始、都市銀行・ネット銀行中 No.1 の品ぞろえに！

～ノーロードファンドは総ファンド数の約 7 割に～

株式会社ジャパンネット銀行（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：田鎖　智人、以下「ジャパンネット銀行」）では、2019 年 9 月 13 日（金曜日）、JNB 投資信託で新たに 50 本のノーロードファンドの取り扱いを開始いたします。これにより、ジャパンネット銀行での総取り扱いファンド数は都市銀行・ネット銀行・新規参入銀行中 No.1（※1）の 312 本になります。
また、ファンドの追加とともに、既に取り扱いのある 64 本のファンドの購入時手数料を無料化（※2）。総取り扱いファンド数の約 7 割にあたる 212 本がノーロードファンドとなりました。初心者の方でも手数料負担が少なく、より購入しやすいラインアップで、お客さまの資産運用ニーズにお応えします。

新たに取り扱いを開始したファンドについて

業界最低水準の信託報酬を目指し続ける「eMAXIS　Slim」シリーズや「購入・換金手数料なし」シリーズのほか、新たな投資手法で注目を集める「グローバル 3 倍 3 分法ファンド」、銀行初の取り扱いとなる「ウルトラバランス　世界株式」、世界的な景気不安により注目されている金の価格に連動するファンドなど、幅広いラインアップをご用意しました。

詳しくは「新規ファンド一覧」をご覧ください。

JNB 投資信託について

・ネット銀行ならではの低コスト設定で、購入時手数料を抑えて効率よく運用可能。
・総取り扱いファンドの約 7 割が購入時手数料のかからないノーロード（※3）。
・つみたて NISA 対象商品も充実（49 本　※3）。
・国内外の株式や債券、REIT（不動産投資信託）などに投資する人気のファンド、高分配や値上がり益が期待できるファンドなど、お客さまのニーズにあったファンドを厳選し、幅広く取り扱っています（総ファンド数 312 本　※3）。

※1 投資信託（金融商品仲介業を除く）の取り扱いがある、三井住友銀行、みずほ銀行、三菱 UFJ 銀行、りそな銀行、埼玉りそな銀行、ソニー銀行、イオン銀行、ジャパンネット銀行で調査（ジャパンネット銀行調べ：2019 年 9 月 12 日時点）。

※2　2019年9月13日約定分からノーロードになります。
※3　2019 年 9 月 13 日現在の情報に基づく。

今後もジャパンネット銀行は、お客さまの資産運用ニーズにお応えできるよう努めてまいります。

株式会社ジャパンネット銀行登録金融機関　関東財務局長（登金）第 624 号
加入する金融商品取引業協会：日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会

JNB 投資信託の重要事項

投資信託は預金ではありません。したがって、投資信託は預金保険の対象ではありません。投資信託には、元本保証および利回り保証のいずれもなく、元本割れが生じるリスクがあります。お取引には所定の手数料等がかかります。ご購入の際には、約款および各ファンドの「目論見書（投資信託説明書）」、目論見書と一体となっている「目論見書補完書面」を必ずご確認ください。このご案内は情報の提供のみを目的としており、投資または特定の商品を勧誘するものではありません。銘柄の選定など、投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。

以上